

(1) 実施機関名：

(独) 産業技術総合研究所

(2) 研究課題(または観測項目)名：

地震や火山活動に関する地質情報データベース

(3) 最も関連の深い建議の項目：

1. 地震・火山現象予測のための観測研究の推進

(3) 地震・火山現象に関するデータベースの構築

イ. 地震・火山現象に関する情報の統合化

(4) その他関連する建議の項目：

4. 計画推進のための体制の強化

(5) 国際共同研究・国際協力の推進

(5) 本課題の 5 か年の到達目標：

活断層データベース・地震に関する地下水観測データベース・活火山データベースについては、新たな調査・観測データを加えつつ引き続き公開する。産総研の所有する種々の地質情報やそれに基づくデータベースの相互運用性や検索容易性の向上を図る。また、それらの地震・火山情報を、地震・火山災害リスクの大きい東・東南アジアの諸国と共有できるようにする。

(6) 本課題の 5 か年計画の概要：

今後 5 年以内に、25 断層程度の活断層の評価を行い、四国・紀伊半島周辺に新たに 8 か所の地下水等総合観測施設を整備する予定なので、その結果や観測データを活断層データベースや地震に関する地下水観測データベースに反映させる。また、十勝岳、樽前山、諏訪之瀬島、九重山などの噴火履歴調査等を行なう予定なので、その結果を活火山データベースに反映させる。

多様な地質情報の相互運用の推進や、検索容易性の向上のための既存地質データベース群の調整を行なう。

東・東南アジア地球科学計画調整委員会 (CCOP) などを通じて、地震・火山情報の共有化のための研究集会などを行う。

(7) 平成 24 年度成果の概要：

産総研のデータベースは外部クラウドサーバーに移行することになっており、各データベースにおいてその準備作業を行った。

火山衛星画像データベースについては、新たに約 21,000 シーンの衛星画像を追加登録し、全登録シーン数が 165,000 シーンとなった。

活断層データベースについては、断層線の位置のずれが目立つものについて修正を行った。

地震に関連する地下水観測データベースについては、南海トラフ沿いのプレート境界における短期的ゆっくり滑りと深部低周波微動 (微動) 震源の図を Web で継続して公開した。

(8) 平成 24 年度の成果に関連の深いもので、平成 24 年度に公表された主な成果物 (論文・報告書等)：

活断層データベース <http://riodb02.ibase.aist.go.jp/activefault/index.html>
活火山データベース <http://riodb02.ibase.aist.go.jp/db099/index.html>
火山衛星画像データベース <http://igg01.gsj.jp/vsldb/image/>
地震動マップ即時推定システム <http://qq.ghz.geogrid.org/QuakeMap/index.html>
地震に関連する地下水観測データベース <http://riodb02.ibase.aist.go.jp/gxwell/GSJ/index.shtml>
日本の第四紀火山 http://riodb02.ibase.aist.go.jp/strata/VOL_JP/
地殻応力場データベース <http://riodb02.ibase.aist.go.jp/db106/>

(9) 平成 25 年度実施計画の概要 :

データベースは、全体として、外部クラウドサーバーに移行する予定である。また、各データベースにおいて引き続き適切な更新を行う。

(10) 実施機関の参加者氏名または部署等名 :

活断層・地震研究センター，地質情報研究部門，地質調査情報センター
他機関との共同研究の有無：有
防災科学技術研究所

(11) 公開時にホームページに掲載する問い合わせ先

部署等名：活断層・地震研究センター
電話：
e-mail：
URL：<http://unit.aist.go.jp/actfault-eq/index.html>

(12) この研究課題（または観測項目）の連絡担当者

氏名：小泉尚嗣
所属：活断層・地震研究センター